

こんしゅう まよ で ひつじ
今週のことば「**迷い、出た羊**」

せいしよ ふくいんしよ
《聖書》ルカによる福音書 15:1-10

み うしな ひつじ
見失った羊のたとえ

このたとえは、マタイとルカの二つの
福音書に伝えられています。同じたとえ
なのですが、違った意図で伝えられてい
ます。

ルカ福音書を見ますと、たとえの話さ
れた状況は、イエスが罪人たちと食事を
したりしているのを、律法学者たちが批
判し、それにイエスがたとえで答えてい
ます。ここでは、見失った羊とは罪人で
あり、牧者は悔い改める罪人を喜んで迎
え入れる父なる神の姿なのです。

マタイ福音書(18:12-14)を見ますと、
小さな者が一人でも滅びることを望まな
い父なる神の考えを示しています。ここ
では、教会の仲間となった人は誰でも受
入れ、自分たちの中から落伍者が出ない
ようにしなければならないのです。

同じ一つのたとえが、新しく生れた教

かい なか べつべつ かいしゃく
会の中で別々に解釈されていったのです。

げん けい
たとえの原型

それではもともとのたとえはどうだっ
たのでしょうか。九十九匹を放っておい
ても、迷い出た一匹を探しにいく牧者
の姿を描いていたと思われます。

イエスの時代でも、今の時代でも同じ
ことですが、社会一般の考えでは、社会
の中でお荷物になる人、一般的に落伍者
と呼ばれている人は切り捨ててしまえば
よいということになります。

しかし、イエスはそうした社会一般の
考えに対して、九十九匹を放っておいて
でも、一匹を選ぶことの大切さを訴えて
います。

イエスの言葉は弟子たちにさえもなか
なか受け入れられませんでした。教会の中
でも、イエスの言葉は自分たちの都合の
いいように解釈されてきたのです。イエ
スのなまの言葉に耳を傾ける努力が必要
なのです。

ねんかんだい しゅじつ ねん たきの
年間第24主日C年(滝野)